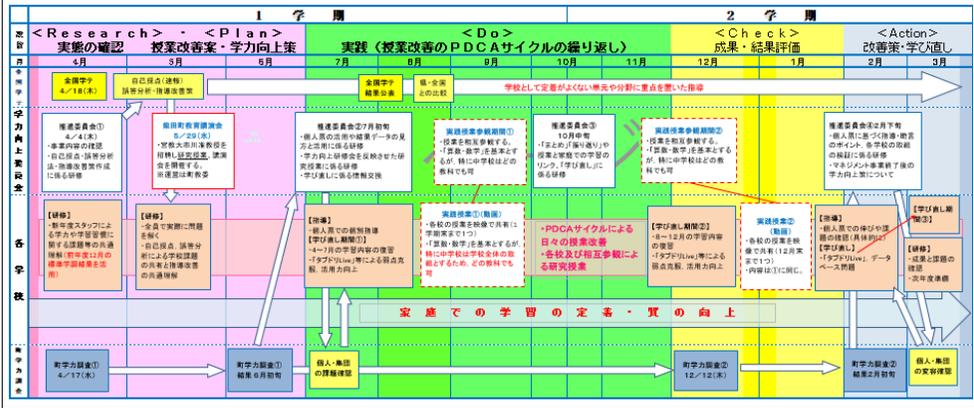


市町教育委員会において組織的に学力を向上させる中核的な組織(学力向上推進委員会)を位置付け、市町全体で学力向上対策を推進する体制を構築

C市の学力向上のPDCAサイクル

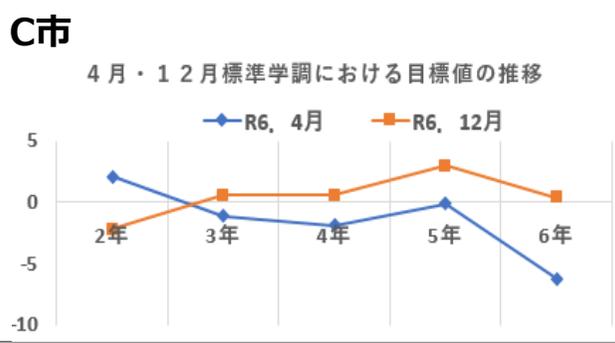


組織的に学力を向上させる中核的な組織

- 名称: 学力向上推進委員会 … 年4回開催
- ・第1回学力向上推進委員会 … 4月開催
町の学力向上PDCAサイクルの確認とサイクルに基づく授業改善について
- ・第2回学力向上推進委員会 … 7月開催
町教育講演会の活用と校内研究や授業改善の重点取組等について
- ・第3回学力向上推進委員会 … 10月開催
各校の授業改善・学力向上の取組や校内研究の推進状況等について
- ・第4回学力向上推進委員会 … 2月開催
「単元構想に基づく授業づくり」と「家庭での学習のすすめ」について
- 推進委員 … 各校2名(うち1名は研究主任)と管理職の希望者
- 推進委員長・副委員長 … 校長会より選出

取組の成果「標準学調目標値の変容と担当者等の声」

標準学調目標値の推移



推進委員会委員長の声

○推進委員会は、学校間の連携を年々深め、効果のある指導について相互に学び合い、授業改善に向かう関係性が醸成されている。



市町教育委員会担当者の声

○推進委員会を重ねる毎に推進委員が自校の強みや特色を把握し、それを生かした学校独自の取組を主体的に推進するようになった。
○推進委員会は、学校の枠を超え、自治体全体をつなげ、学力向上に向けた学校間の連携を強化させた。そして、他校や異校種間における職員の研修の幅を広げていった。

<学力向上マネジメント支援事業> AIドリルを導入し、自律的・自発的な学習を促進

単元構想を意識した授業でのAIドリルの活用、放課後学習、家庭学習でのAIドリルの活用により、児童生徒が自律的・自発的な学習を進める。

事例内容 AIドリルを授業、放課後学習、家庭学習に効果的に導入し、児童生徒の「分かった」につなげる。

授業中のAIドリルの活用



- AIドリルを単元での位置付け
- 授業前にレディネスを揃える手段
- 一人一人に合った適用問題
- 「自治体ワークブック」の活用 等

「問題を出せばなし」からの脱却
適切な評価（賞賛等）は必要

放課後学習・家庭学習等でのAIドリルの活用



- 一児童生徒の自律的・自発的な学習へ
- 放課後学習や隙間時間での活用
- 家庭学習での活用
- 長期休業中の活用 等

授業との関連がポイント

取組の成果

AIドリルの活用で児童生徒の「分かった」へ

活用率・平均解答数の増加が知識・技能の確実な定着へ

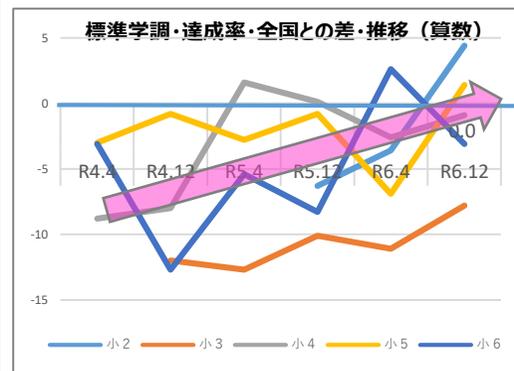


AIドリルの活用により
○標準学力調査の達成率の向上
学力が伸びる →
自律的・自発的な学習につながる

自律的・自発的な学習 →
学力が伸びる という可能性

学習の好循環へ

標準学調・達成率の変容



- AIドリルの活用
自律的・自発的な学習
- 学習者主体の授業づくり
等

標準学調・達成率・全国との差

改善傾向
全国値を上回る学年も

<学力向上マネジメント支援事業> **学びの系統性・連続性を重視した小中連携の推進**

「教職員」「児童生徒」「教育課程」「地域・保護者」の視点で連携・交流。「協同的な学び」による授業づくりを市全体で推進し、全ての子どもの学びを保障。

事例内容 「協同的な学び」による授業づくりの推進。授業づくり研修会による小中の連続性を重視。

教職員連携・交流

(中学校区の教員の同僚性)



- 協同的な学び充実研修会（市主催、年3回）と合同授業研修会
- 指導主事学校訪問での授業参観、事後検討会への参加
- MA訪問への教員の帯同
- 幼保小連携の充実

小中連携教育の取組

教職員連携・交流

教育課程連携・交流

- 【学びの連続性】
- 中学0年生プロジェクト
 - 小中協働の授業づくり

児童生徒連携・交流

【中一ギャップの解消】

- 合同あいさつ運動
- 子ども未来サミット

地域・保護者連携・交流

- 【コミュニティースクールとしての学校】
- でめこん（デジタルメディアコントロール）

取組の成果

全ての子供の学びを保障する授業づくり

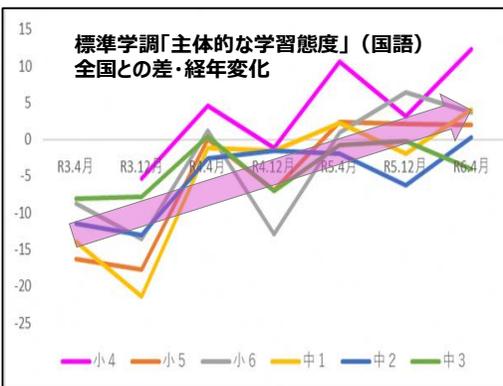
全市をあげて どの学校でも どの学級でも どの授業でも



— 支え合い 聴き合い 学び合う —

- 一斉ではなく、子供同士の学びへ
- グループでの学び合い
- 「分からない」をきっかけに考える
- 「丁寧に教える」から「子供同士の聴き合い 学び合いを丁寧に」への転換
- 「援助要請」と「探索的会話」

標準学調「主体的な学習態度」の変容・達成率の向上



小中連携しての授業づくり

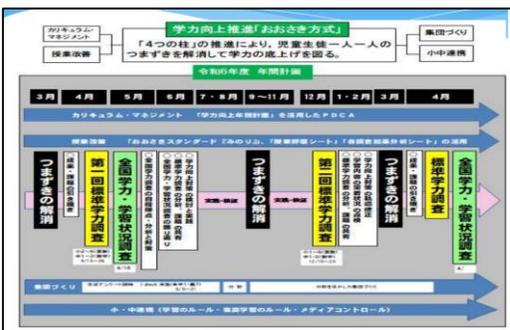
- 標準学力調査の「主体的な学習態度」の変容での上昇傾向。全国値を上回る学年も
- 全国学力・学習状況調査での無解答率の低さにも
- 標準学力調査、達成率向上

<学力向上マネジメント支援事業> 年間指導計画を工夫してつまずき解消期間を設定

市町村教育委員会の作成した年間計画をもとに、学校で実態に合わせたつまずきを解消する時間・期間を設定する。

事例内容 つまずきを解消する時間・期間を設定し、効果的に実践するための取組の工夫

年間を見通すための年間計画の作成と活用



- 年間計画は「児童生徒一人一人のつまずきを解消する」というねらいのもと、取組の見通しをもてるように作成
- つまずき解消期間を設定するには、日常の授業を計画的に行うことが重要
- つまずき解消は特定の学年学級ではなく、全校で計画的な取組に
- 各校で年間計画の自校化

つまずき解消期間に扱う内容の精選

標準学力調査分析シート

学年	科目	調査項目	調査結果
1年	国語	読解力	
1年	算数	計算力	
1年	英語	基礎知識	
1年	理科	基礎知識	
1年	社会	基礎知識	
1年	総合	基礎知識	
1年	道徳	基礎知識	
1年	体育	基礎知識	
1年	音楽	基礎知識	
1年	美術	基礎知識	
1年	外国語	基礎知識	

- 当該学年における学習内容の定着を目指し、つまずき解消期間に扱う内容は、標準学力調査等の分析結果をもとに、精選
- 扱う内容によって個人やグループ、一斉等、学習形態も工夫することでより効果が期待

取組の成果

年間を見通した計画的な実施

- 年間計画を示すことで、年間の取組が明確になり、見通しをもって実践する学校が多くなった。
- 学力向上推進委員会に加え、教務主任者会でも提案することで、つまずき解消期間を年間行事予定に明記することができた。そのことで、全職員で取り組む意識を高め、実践を自校化することができた。
- つまずき解消期間では、全校体制で取り組めるよう、担当が職員の割り振りを行った学校がある。そこでは担任外の職員を加えた複数職員で指導にあたることができ、個別指導や少人数指導が可能になった。

各校の実態に合わせた取組の工夫

- 学期末の設定を、児童生徒の実態から長期休業前に変更する学校もあった。（年度末は実施する。）
- つまずき解消期間に加え、学び直しとした復習の時間を週計画に位置付け、定期的に学び直しの機会を設けた。（朝活動や放課後）
- 生徒会が中心となり定期テストの前に勉強会を実施した。そこでは教師に加え、生徒同士で学び合う姿も見られた。
- 児童生徒の実態に合わせたプリント教材（基礎基本や発展）を作成した。

<学力向上マネジメント支援事業> 標準学力調査（4月・12月）結果分析を踏まえた授業改善

学力向上のための年間スケジュールは、PDCAサイクルで学力調査時期を明確に位置付け、学級の達成率と個の変容を見取りながら調査結果を分析し、授業における具体的な手立てを立案して、実践に生かす。

事例内容 標準学力調査結果の活用し、児童生徒一人一人に着目しながら、個別最適な学びにつなげる。

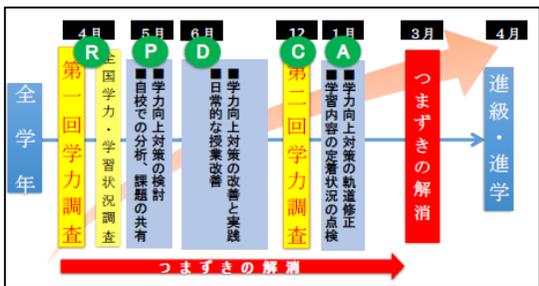
ワンランクアップシートの活用

学級分析表
～「ワンランクアップ大作戦」の進捗状況～

Hyper G-U満足度		学級集団の型				
		A	B	C	D	E
		平均値より5%以上高い	平均値より高い	平均値以下	平均値から10%以下	平均値から20%以下
番号	年組					
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

○担任が作成。学級の状況を把握。
○一人一人の伸びや課題を確認し、授業や家庭学習での活用。
○授業改善の客観的な根拠や成果の確認資料としての位置付け

「学び直し」期間の設定

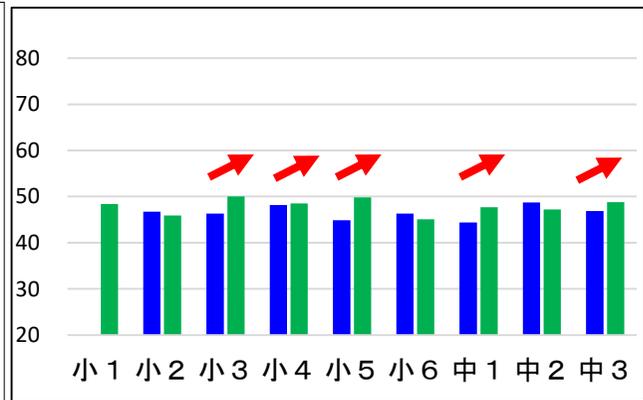


○カリキュラムマネジメント。年間指導計画の工夫したつまづき解消期間を設定。
○つまづき解消期間を「学び直し」と呼び、年度末だけでなく、学校の実態に応じた時期や内容を各校が検討し、担任任せではなく全校体制で取り組んだ。

取組の成果

達成率の向上

○職員会議等で、共通の手立てを確認する時間を設定。
○達成感を味わわせたり、達成率が向上したりするための好事例を職員間で情報共有
○導入は短時間で本時の課題を提示し、振り返りまでを組み込んだ授業構成
○児童生徒のアウトプットの時間を保障する授業構成の工夫



授業改善

○学習習慣の確立（話の聞き方・発表の仕方）
○協働的な学び（ペア・グループでの学び合い）
○板書の構造化とノートとの一体化
○説明・指示・発問の精選
○学びの環境（掲示物の文字の量と丁寧さ）
○家庭学習との連携

